

# 株式会社ジェイコム中野

## 2015 年度 放送番組審議会 議事録

2015 年度 株式会社ジェイコム中野 放送番組審議会は、2016 年 3 月 23 日(水)、同社にて開催された。

＜放送番組審議会委員＞ (五十音順)

ご出席

小野 光 様	折原 烈男 様
酒井 直人 様	田辺 裕子 様
長谷部 智明 様	宮島 茂明 様
涌井 友子 様	

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(折原会長による進行)

### ◆地域密着の施策と放送エリア拡大について

**委員** 地域アナウンサー(正社員のアナウンサー)と地域プロデューサー(地域ステークホルダーとの関係構築を担う正社員)の擁立という施策は、非常に良い取り組みだ。地域アナウンサーはたどたどしいところもあるが、地域とのつながりが強く、会社を背負っているという印象がある。現在、地域アナウンサーを務めている森永さんは、正にその通りで、J:COM 中野の顔になっており、彼女が出ている番組は関心を持って見られていると思う。一方、地域プロデューサーの佐藤さんは中野のことを詳しく理解しているので、取材等をお願いしやすい存在である。

なお、放送エリアが中野区と杉並区になったことで、中野の情報が薄まるのではないかと懸念がある。中野情報はきちんとクローズアップして欲しい。例えば、災害などの緊急時において、中野区エリアでは中野の情報だけ伝えられる仕組みはないのか？

**事業者** 災害などの緊急時対応については、今年から L 字放送を用いて、中野区エリアには中野に関する情報のみ出せるようになっている。但し、番組本編は中野区と杉並区で共通なので、どちらの区の情報であるかが明確に分かるよう伝え方を工夫する考えである。

**委員** 「デイリーニュース」で中野と杉並の情報が発信されるようになったことについて、周りから色々な声を聞く。杉並区民は総じて地元の情報が放送されるようになり喜んでいる。一方、中野区民は中野の情報が減ったと感じているようだ。番組の取材・制作には、コストが掛かることから仕方ない部分もあると思う。先日放送された「中野と杉並どっち de ショー」のように中野区と杉並区の両方で放送していることを伝えていけば、だんだん一体感化していくだろう。因みに、「デイリーニュース」での中野と杉並のニュース件数はどのようになっているのか？

**事業者** 当日のネタにより件数に偏りが出る場合があるが、1週間で見ると半々になるよう心掛けている。

**委員** 取材エリアが中野区だけでなく杉並区へも広がったので、取材体制が大丈夫なのか気がなっている。

**事業者** 確かに取材エリアが広がり、移動距離が増えるなどの負荷が掛かるようになったが、以前と同様のニュース件数を保つように対応している。

**委員** 区境には学校があり、中野区民が杉並区の学校に通っていたり、その逆もある。さらに幼稚園はもっと広域的な動きがある。加えて、乳幼児や就学前の子供を育てている保護者は、区の境に関係なく仲間作りをしている。中野区と杉並区は隣同士だし、区民の交流という点を意識して放送してもらえると双方にメリットがあると思う。

**委員** 杉並の情報が入るのは良いことだと考えている。理由は、中野区と杉並区の施策やイベントなどの比較ができるから。現在、細かな情報はインターネットで見ることができ、広域情報は地上波で知ることができるので、J:COM 中野は難しい立ち位置にあると思う。そのような中、“地域の情報ステーションとしてのポジショニングを確立する”との方針は評価できる。また、地域アナウンサーの森永さんは頑張っているので応援したくなる。

**委員** 取材範囲が広がったため、スタッフが大変な苦勞をしているのではないかと心配している。そんな中、地域アナウンサーの森永さんは中野のアイドルになっている。取材中に『森永さん！』と声を掛けられている姿をよく見かける。また、取材スタッフは、長らく中野を担当しており、親しく気軽に話せる存在になっている。中野区民の中には、高円寺や阿佐ヶ谷へ買い物等に行く人がいるので、杉並の情報が入るのは良いと思う。

#### ◆地域情報の発信について

**委員** 地域に根ざして、様々な情報を伝えており評価できる。

これから 10 年の間に、幾つかの駅前周辺の開発が進んでいくのだが、情報が錯綜している状態である。そこで、行政発表のみならず、地域の動きも含めて、月に 1 回程度、定期的に街作りの情報を発信して欲しい。区報に掲載していても知らないという方がいるので、色んな媒体で紹介することは大事だ。区民に対する説明会の日時等を周知し、関心を持ってもらいたい。

**委員** 公開生放送「中野と杉並どっち de ショー」を観覧したが、番組の最後に司会者が『この番組は中野と杉並の勝ち負けを決めるものでなく、中野と杉並に優劣は無く同じですよ！』という趣旨のまとめ方をしたのは、本当に素晴らしいと感じた。

**委員** J:COM 中野は行政との距離は近いが、区民との距離は遠いように感じる。区議会の中継を始め行政情報を発信する機会が多いが、区民の声の紹介が少ないと思う。現在、東中野にある桜並木を切るという話がある。これは地域にとって非常に大きな問題である。このような地域の問題や関心事を上手く拾い上げ、当事者の話を聞いた上でニュースにし、解決するような方法で動いていくことができればメディアとして支持されるだろう。

**委員** 駅前再開発について関心のある区民、および中野区で働いている方は多い。この情報を発信するメディアとしては、J:COM 中野が最適だと思っている。今後 5 年間の中野駅北口における中野サンプラザと中野区役所周辺の再開発は、非常に大きな変化となるので、リアルタイムのニュースで伝えて欲しい。特に、中野区民にとっての中野サンプラザは、日本人にとっての富士山と同じようなものである。できれば、双方向のデータ放送を活用して、“中野サンプラザを残すべきかどうか”のアンケート調査を行って欲しい。

**委員** 区民と行政との色々な調整は、J:COM 中野の立場上、なかなか難しい微妙なところがあると思う。

**委員** 報道の立場は難しいと思う。意見の偏り無く、賛成、反対、さらに中間の考えも含め、様々な意見を紹介して欲しい。区民の中には、自分だけの意見と思って声を上げない人がいると思う。しかし、テレビで自分と同じ意見が紹介されて、行動を起こすことになるかもしれない。また、色々な意見を知ることにより、自分も変わらなければと感じる人が出てくるかもしれない。是非、地域の情報源になって欲しい。

以上